



京セラ株式会社 2022 年 3 月期 上期 決算説明会
(2021 年 11 月 1 日開催)

取締役 執行役員常務 青木 昭一 スピーチ

<1. (中表紙) 2022 年 3 月期上期 決算概要>

<2. 2022 年 3 月期上期 決算概要>

当上期の売上高は、前年同期に比べ 25.9%増加の 8,763 億円となり、上期として過去最高を更新しました。利益についても増収効果により大きく増加し、営業利益は 214.5%増加の 757 億円、税引前利益は 105.9%増加の 994 億円となり、税引前利益率は 2 桁へ改善しました。当期利益は 113.1%増加の 732 億円となりました。

設備投資額や有形固定資産減価償却費、研究開発費についても事業投資を進めたことから、増加しました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ 3 円円安の 110 円、対ユーロは 10 円円安の 131 円となり、これにより売上高は約 260 億円、税引前利益は約 90 億円押し上げられました。

<3. 2022 年 3 月期上期 事業セグメント別売上高>

事業セグメント別の売上高は、「コアコンポーネント」と「ソリューション」は約 25%、「電子部品」は 30%の増収となりました。

<4. 2022 年 3 月期上期 事業セグメント別利益>

事業セグメント別の利益は、増収を主因に「コアコンポーネント」と「電子部品」は約 3 倍、「ソリューション」は約 4 倍と、全セグメントで大幅な増益となりました。

<5. 2022 年 3 月期上期 業績サマリー>

当上期は、全セグメントで売上高、利益率ともにコロナ禍以前を超える水準へ改善しました。この主な背景として 2 点ご説明します。

1 点目は、新型コロナウイルス感染症の影響の緩和です。感染症の拡大により、前期に大きく低迷した自動車関連市場やドキュメント市場で需要が回復しました。

2点目は、半導体及び5G関連部品の需要の増加です。半導体製造装置用ファインセラミック部品などスライドに示した部品については、過去から戦略的に設備投資を行い、増産を進めてきました。これにより、当期の好需要を着実に収益に結び付けることが出来ました。

<6. 2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移 (1) コアコンポーネント>
事業セグメント別にご説明します。

スライド上段のグラフは、コロナ禍以前の2020年3月期上期から、当上期までの半期毎の売上、利益の推移を示しています。下段の増減要因は、当上期と前年同期の2021年3月期上期を比較しています。

「コアコンポーネント」は、産業・車載用部品事業における半導体製造装置用ファインセラミック部品や車載カメラの需要増に加え、半導体関連部品事業において5Gや自動車関連市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことにより、増収となりました。利益は増収により増加し、利益率は2桁へ改善しました。

<7. 2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移 (2) 電子部品>

「電子部品」は、自動車関連市場や産業市場などの回復に加え、5G及び半導体関連市場での需要増により売上が増加しました。

利益は、増収及び小型の高容量コンデンサや水晶部品など、高付加価値製品の需要増や原価低減により増加し、利益率は16%に向上しました。

<8. 2022年3月期上期：事業セグメント別半期業績推移 (3) ソリューション>

「ソリューション」は、機械工具事業において自動車関連市場や建築、住宅市場向けに売上が増加したことに加え、ドキュメントソリューション事業において欧米を中心にプリンターや複合機の需要が回復したことを主因に増収となりました。

利益は、増収に加え、自動化への取り組みなどにより生産性が向上したことも寄与し、増加しました。

以上が上期の決算概要です。続いて、通期業績予想についてご説明します。

<9. (中表紙) 2022年3月期通期 業績予想>

<10. 2022年3月期通期 業績予想>

本日、通期業績予想を上方修正しました。

売上高は前回予想から200億円増加の1兆7,500億円、営業利益は290億円増加の1,460億円、税引前利益は300億円増加の1,900億円、当期利益は260億円増加の1,390億円を予想しています。

通期の為替レートは、対米ドルを前回予想の105円から110円へ、対ユーロを125円から130円へ変更しています。

<11. 2022年3月期通期 業績予想修正の要因>

業績予想の修正要因をご説明します。

5G関連部品等の需要は期初の想定を上回って推移しており、下期の需要も高水準を維持する見通しです。

一方、半導体をはじめとした部材の不足や価格の高騰などが顕在化しており、コストの増加や生産への影響が懸念されます。先行き不透明な事業環境にありますが、上期までの進捗及び、当社が高いシェアを有する部品の需要見通し等を踏まえ、各事業セグメントの予想を期初予想から変更しています。

「コアコンポーネント」は、売上高、利益ともに期初予想を上回る見通しです。

「電子部品」は、売上高は変更ありませんが、利益を上方修正しています。

「ソリューション」は、売上高、利益ともに期初予想を下回る見通しです。

<12. 2022年3月期通期 事業セグメント別売上高予想>

<13. 2022年3月期通期 事業セグメント別利益予想>

(事業セグメント別の売上高及び利益予想を、前期比及び前回予想比と比較して記載)

<14. 2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (1) コアコンポーネント>

事業セグメント毎に前回予想との比較についてご説明します。

「コアコンポーネント」は、半導体製造装置用ファインセラミック部品や5G向けセラミックパッケージの需要増により、売上高、利益ともに前回予想を上回る見通しです。

<15. 2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (2) 電子部品>

「電子部品」は、自動車関連や通信市場の影響を大きく受けることから、売上高は前回予想を据え置きましたが、利益は、主要製品の収益性改善や原価低減の取り組みが想定以上に進んでいることから、上方修正しています。

<16. 2022年3月期通期 事業セグメント別業績予想 (3) ソリューション>

「ソリューション」では、機械工具事業の需要は堅調に推移しているものの、ドキュメントソリューション事業においてサプライチェーンの混乱の影響を大きく受けています。そのため、売上高、利益ともに前回予想を若干下回る見通しですが、原価低減などの取り組みにより、利益率は前回予想を維持する見通しです。

<17. 来期以降の成長に向けた取り組み (1)>

来期以降の成長に向けた取り組みについて2点ご説明します。

1点目は、電子部品セグメントにおける組織統合の本格的な推進です。

2021年10月に、「AVX Corporation」の社名を「KYOCERA AVX Components Corporation」へ変更するとともに、欧州及び米国拠点における営業組織を統合しました。2022年4月以降には日本やアジアでの営業組織の統合を計画しており、販路の相互活用による売上拡大を図ります。製造、開発部門では、協業による生産拠点の活用や製品の相互供給を積極的に推進すると同時に、新製品開発においてもシナジーの最大化を図り、総合電子部品メーカーとしてグローバル展開を強化していきます。

<18. 来期以降の成長に向けた取り組み (2)>

2点目は、半導体製造装置用ファインセラミック部品の増産投資です。

半導体の需要は5Gの普及やDXの進展に伴い増加するものと予想され、中長期的な市場の拡大が見込まれます。また、プラズマ強化や高温化、高精度化など、製造装置の高機能化へのニーズも高まっており、これらのニーズに合致するセラミックスの特性により、部品におけるセラミック化の進展が見込まれます。

このような見通しを踏まえ、当社は半導体製造装置用ファインセラミック部品の生産拡大に向けて、鹿児島国分工場において2棟の新棟建設を計画しています。新棟の活用により、鹿児島国分工場における半導体製造装置用ファインセラミック部品の生産能力は、従来比で約2倍となる見通しです。

これらの取り組みを着実に実行し、来期以降の成長へ繋げていきたいと考えています。

<19. 株主還元 (1) 配当金>

株主還元について、2点ご説明します。

1点目は、配当金の上方修正です。

業績予想の上方修正に伴い、年間配当金についても期初予想の160円から20円増額の180円に修正しました。前期に対しては40円の増配となります。

<20. 株主還元 (2) 自己株式の取得>

2点目は、自己株式の取得です。

当社は、株主還元の強化、並びに機動的な資本戦略への準備を目的に、取得総数400万株、総額約272億円を上限に自己株式を取得します。

当社は今後も、業績向上に努めるとともに、株主還元の強化を図ってまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2022年3月期上期決算説明会開催日(2021年11月1日開催)時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください(<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>)。